

熊本から第5報です。

27日、9時前に福田病院に福田理事長にお会いする。福田先生はクリスチャンで現在熊本県医師会長、今年のJCMA総会では準備委員会が会期中、熊本ツアーを考えられていてその受け入れ病院の一つでもある。昼前に熊本を離れ、夕方6時半からJCMA福岡・佐賀部会の例会（総会準備会）に出席し、熊本の被害状況についてお話しする。

1. 熊本県医師会長としては、被災者支援のための他県からの医療応援の必要性について、今後の余震の有無、地滑りなどの様子などもあり、軽々に述べられないとのことであった。ただ私の受けた印象では、会長も、今の状態が続けば、熊本県内の被災地も限定されているし、その場、また周辺の医療機関も大体開いているので、何とか県内で協力しながら自分たちで出来るのではないかと考えられている様子に見えた。
2. キ医連福岡・佐賀部会の例会が九大の精神科ミーティングルームで6時半から開かれた。前日、青戸部会長から熊本の被害状況、支援の様子を例会で話すように頼まれ出席。全体像をお話しし、熊本に住まわれている、4人の会員、弟子丸医師、俵医師、石田医師、坂本看護師の被害状況、現在の活動の様子、今後の支援に対するお考えなどを伝える。
3. 熊本YMCAから要望のあった、阿蘇キャンプ地（ボランティアセンターになる）に看護要員が常駐し、ボランティアに来た方の健康管理や地域被災者の予防教育に当たる件、また熊本YMCA職員（約300人）と被災者の心のケアについて対応していただける方を派遣してほしいとの要望の件、この2つを説明し、集まられた10数名の方々に伺う。大体の意見としては現役のものは職場を数日以上離れて応援するのは難しい。この件はJCMA本体として受け止め、対応してほしいとのこと。

私の5日間の観察、聞き取りをした印象では、現在は全国から物資も大分集まり、応援の人も駆けつけてくれている。今後はがれきの整理、住宅建設、仮設住宅の管理、PTSDに対する対応が大きな問題として浮上してくる。JCMAとして、もし可能であれば、東日本に続き、心のケアチームの派遣、仮設住宅入居者への健康管理などに、人手が得られれば派遣して応援してはどうか。手始めとしてはYMCAから要望があった上記2つに応える努力をするのが良いと考える。

檜戸健次郎、札幌、28日